



木材会館前会場 野外彫刻作品マップ



<https://www.google.com/maps/d/edit?mid=1Fbs79ydfyB0IZZuhCKgDkt4mP9hUGLc&usp=sharing>

1 井上修志・大原由・戒田有生 / GOOD PLACE

設営協力：アツヤバクソク 木材提供：沢田フォーレスト

2 新妻篤 / adjacent lonely #3

/ TAKE OUT

/ 冬至

新妻篤の作品は別会場である 江東区夢の島競技場 & 夢の島公園でもご覧いただけます。

主催：新木場&夢の島わくわくおさんぽアートフェス実行委員会

共催：都立夢の島公園、夢の島熱帯植物館、東京新木場木材商工協同組合



木材会館前会場

1 井上修志・大原由・戒田有生

GOOD PLACE / 2022 / 木材、モルタル、砂 wood, mortar, sand

設営協力：アツヤバクソク 木材提供：沢田フォーレスト



展示会場となる新木場は1969年に埋め立てにより完成した。

水陸両用国際飛行場として想定されていたこの土地は、

戦時下の物資不足から軍用飛行場への転用が決定したが、すぐに計画は頓挫している。

その後一時的に海水浴場として使用されたのちにゴミ処理場を経て現在へと至る。

昭和30年代には海水浴場から小判が相次いで発掘され騒動になったり、

40年代には「ハエの天国」と呼ばれるほど埋め立てられたゴミが問題になったり、新しく作られた土地に目まぐるしく歴史が刻まれていった。

様々な歴史が地層のように積み重なったこの土地に筏（いかだ）を浮かべること。

その筏の材料となる木材は新木場で今でも営業している材木店から頂いた、

傷みや腐れなどにより使用されなくなった廃材である。

その腐れによって欠損した部分の型をとって反転させて、失われた部分を立ち上げる。

沈下し、埋没してしまった歴史を表に掘り起こし、どこかに埋まっている小判を探す。

自分が立っている場所は海の中で、砂浜で、筏の上で、滑走路なのかもしれない。

2 新妻篤

adjacent lonely #3 / 2017 / 大理石に彩色



人体彫刻は、自分の概念に形を与えるように構成するパターンと、

写真を撮るように身近な人物のふとした一瞬を切り取り石に凍結するパターンがあり、これは後者のパターン。

キラキラした結晶が特徴の石肌を活かしたくて衣服は彫り跡をそのまま残す形で

ざっくりとしたセーターの柔らかさを表現しました。

TAKE OUT / 2013 / 砂岩



人の生活の中にある日用品、とりわけインスタントなものに惹かれます。

その中でも、くしゃっとした頼りない風体がどこか人っぽくて、

明日にはゴミとしていなくなってしまう彼を最も遠い素材である石で留めておこうと思った。

完全無欠なものより、よれてたり、汚れてたり、欠けてるものに愛を感じます。

冬至 / 2011 / 黒御影石



数少ない動物モチーフの作品。

実家で飼っていた黒猫が丸まって寝てるのを観察しながらミニマルな塊としてなら硬い御影石でも

彫れるかなと思い、大学を出立ての頃にのんびりと作った思い出。是非撫でてあげてください。